

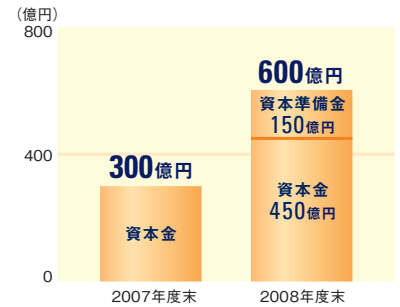
2008年度業績ハイライト

■自己資本を増強

600億円

2001年4月の業務開始時に、AIGより調達していた永久劣後ローンを2009年3月に株式化し、300億円の増資をしました。これにより、増資後の資本金および資本準備金の合計額は600億円(資本金450億円、資本準備金150億円)となり、財務基盤を更に強化させました。

資本金等の推移

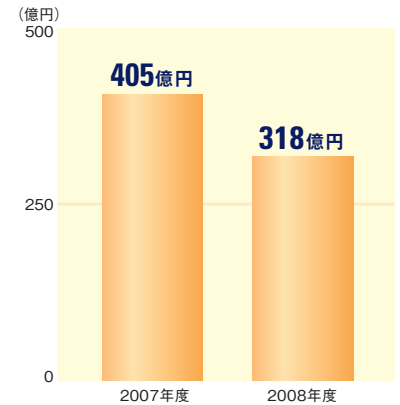


■基礎利益

318億円

保険本業での収益力を示す基礎利益は318億円を堅実に確保しました。しかしながら、世界的な金融市場の混乱を受け、有価証券評価損750億円などを計上したことにより、最終損益は414億円の純損失となりました。この純損失は、2008年度始において1,022億円有していた利益剰余金にて吸収しており、当社の財務体質に大きな影響はありません。また、基礎利益上の運用収支等の利回りは平均予定利率を上回っていることから、逆ざやは発生していません。

基礎利益の推移

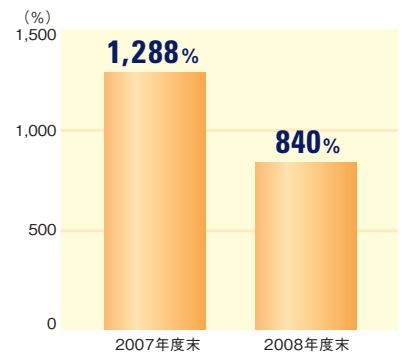


■ソルベンシー・マージン比率

840%

資産運用環境の悪化により、その他有価証券の評価差額が減少したことなどから、ソルベンシー・マージン総額が大幅に減少しました。この結果、ソルベンシー・マージン比率は840%となったものの、引き続き高い水準を維持しています。また、実質純資産については、有価証券の評価額が大幅に減少したことに伴い945億円となりましたが、引き続き想定されるリスクをカバーできる十分な水準を確保しています。

ソルベンシー・マージン比率の推移

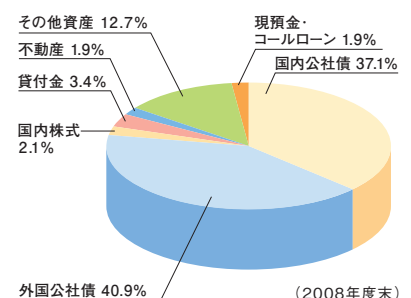


■資産ポートフォリオ

安定性・流動性に配慮した運用を行っています

2008年度は、深刻化する世界的な金融市場の混乱のなか、安全性および流動性確保の観点から、国内株式や不動産投信等の残高を圧縮する一方、国内債券への比重を高めました。外国有価証券については、為替相場の急激な変動に備えるため、残高の圧縮に加えて、為替ヘッジを行いました。なお、外貨建個人年金保険については、その負債特性に応じた外国債券への投資を行っており、資産負債のマッチングを図っています。

一般勘定資産の構成

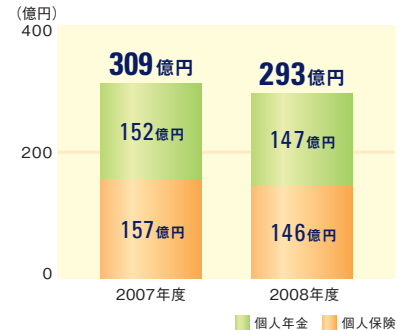


■ 新契約年換算保険料

293億円

2008年9月頃からの急激な景気の冷え込みやAIGの事業再編発表の影響による厳しい販売環境のなか、新契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計で293億円と前年同期比5.3%の減少にとどまりました。また新契約高については、個人保険と個人年金保険の合計で5,380億円、新契約件数は合計で14万3千件となっています。

新契約年換算保険料の推移

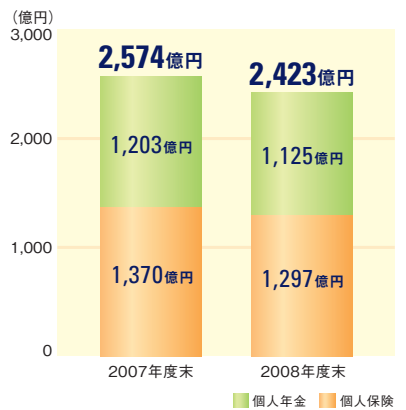


■ 保有契約年換算保険料

2,423億円

2008年9月頃からのAIG関連報道の影響で、一時的に解約が急増したものの、新契約業績の下支えもあり、保有契約年換算保険料は個人保険と個人年金保険の合計で2,423億円となりました。保有契約高は、個人保険と個人年金保険の合計で8兆4,150億円、保有契約件数は合計155万4千件となっています。

保有契約年換算保険料の推移

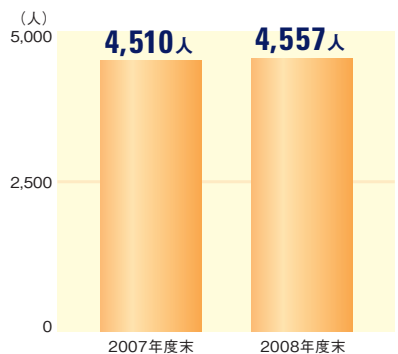


■ 営業社員数

4,557人

コンサルティング型営業に特化したライフデザイナーなどの営業社員数は、2008年度末時点において前年同水準の4,557人となりました。登録代理店数は2,194店、銀行窓口販売分野における提携金融機関数の合計は43行庫となりました。これからも適切なコンサルティングを通じ、お客様にご満足いただける保険商品、サービスをご提供していきます。

営業社員数の推移



■ 皆様のお役に立った保険金・給付金

886億円

2008年度の保険金のお支払い金額は492億円(件数:3万2千件)、給付金のお支払い金額は394億円(件数:19万2千件)となりました。当社は、お客様の信頼にお応えし、お客様に安心と満足をお届けするために、引き続き迅速な保険金・給付金のお支払いを心がけてまいります。

保険金・給付金等のお支払い状況

